

花まるたより

2024
110

Hanamaru
Monthly
Newsletter





2024年10月

デコピン

大谷翔平の試合を夫婦で観てきました。花まる学習会を始めて32年目なのですが、起業して始めた会社でもあり、創業当時は一年のうち364日くらい働いていましたし、その後もずっと睡眠も短く、休日も全社員の誰よりも少ないという形で長年働きつめてきた。それは辛いどころか、自分で決めた遊びをやり抜く小学生や、自分で決めた部活に熱中する中高生と同じで充実していました。子どもたちと向き合える授業や一緒に走り回れるサマースクールなどは、いつもずっと天国そのものの日々でした。

しかし、副作用としては「家族と一緒に過ごせる時間がほかの社会人に比べて極端に短い」ということがあります。最初の20年くらいは妻も大目に見てくれていましたが、さすがにまずいということで、コロナ禍になる前、年に1〜2度、家族3人でハワイに行ったり、夫婦でドイツやスペインを旅したりという時間を作りました。それが、現地でお世話してくださる方々のもてなしなどにも恵まれ、実に心穏やかで楽しく幸せなひとときになったのです。

ところがコロナが襲ってきて急激に閉ざされ、回復途上の時代でも「まだ海外旅行

復活は早いか」と我慢するしかありませんでした。しかし「さすがにもういいだろう」と今年復活したので。本当はバリのオリパラ観戦を企画していたのですが、どう調整してもサマースクールと重なる。それは一番大事なものを軽視する行動でもあり、やめました。やめたはいいが代わりに何がよいか考えました。私がまるまる一か月間毎日出すっぱりのサマースクールの日々が終わり、9月上旬は秋の授業が開始する谷間でもあり、「大谷を観に行こう!」と夫婦での弾丸ツアーを提案したので。正式にチケットを入手したのも夏前、というくらいの急な決定でした。

サマースクールで酷使した老体には若干ハードスケジュールでしたが、これが当たり前でした。2試合観たうちの1試合が、あのデコピンの始球式の日だったので。ベンチ裏で観ていたら大谷選手が見覚えのある犬を抱っこしてグラウンドに登場。「デコピンだ!!」と球場全体がゴーツと轟音のような盛り上がりでした。そして何をするのか観客は知らなかったのですが、それは始球式だったのです。あの聞き分けとお行儀のよさ、跳ねるようにまっすぐに走る姿、無事に球を届けたあとのハイタッチや甘え

ぶり、受け止める大谷選手の子どものような笑顔、すぐには抱っこされないぞとスルリと逃げる仕草など、もうすべてが本当にかわいらしくて魅了されました。妻は「デコピンかわいいー!!」と少女のような歓声をあげていました。

試合は試合で、大谷選手のホームランも盗塁も観ることができ大満足でした。そしてさらに驚くことが起きました。当日観戦した客には先着順でデコピンを抱いた大谷選手のボブルヘッド人形をくれたのですが、二人とももらえたところが、妻はワールドの人形が当たったのです。まわりのアメリカ人の客たちが「写真を撮らせてくれ」「ラッキーだね」と言ってきたりして、おまけではあるのですが、「当たった感」が心地よく、なかには米国のフリマ・オークションサイトで超高額の値がついていることを教えてくれる人もいたりして、ホクホクした気持ち夫婦で共有できたのです。

現地でもそうですが、機内や帰国後も、会う人会う人「持ってますねー!」と言われるし、そんなこんなで、旅自体だけでも楽しいのに、その一試合がくれた歓喜や驚きの詰め合わせのような肯定的な心のプレゼントのおかげで、妻がハレバレとした良

新刊情報

『もう悩まない! 不登校・ひきこもりの9割は解決できる』

高濱正伸／杉浦孝宣 著
(実務教育出版)



どんな子にも、不登校になる可能性はあります。でも、大丈夫。やり直せる方法はいくらかもあるのです。子どもが不登校になると、多くの親は学力をつけさせようと思いますが、一番大事で真っ先にやらなければならないのは、規則正しい生活習慣を身につけることなのです。

『I型(内向型)さんのための100のスキル』

鈴木奈津美(なつみっくす) 著
(BOW&PARTNERS)



本書は内向的であるがゆえに人生で何度も悩んできた著者が、100冊もの内向型の本を読破し、実践してうまくいったことベスト100を提示した本である。大人はもちろんだが、これを読んで救われる思春期の子は多いだろうと感じた。驚くべきことは、これが子育てをしながらバリバリ働き、かつ社会に貢献する組織を立ち上げ運営している一人の母によって書かれている点だ。きめ細やかで丁寧。まさに内向型だからこそその強みを示しているのだろう。

高濱の本棚

気持ちになってくれたのは、本当に嬉しかったです。

さて、帰国した日から脳性麻痺の25歳の息子が、すこぶる調子が良い。よくしゃべるし笑顔が絶えず幸せそうなのです。実は、生まれてこの方ずっと一日の例外もなく、「母が笑顔なら自分も笑顔。母が不安や怒りを感じていると何かの症状を出すくらい自分も不安定」だったので、いつも通りの反応ではあったのです。おもしろかったのはそのことに気づいていない妻が、お友達に「私たちが旅行から帰ってから、やたらご機嫌なのよね」と言っていたことです。横で聞いていた私は即座に「そりゃー、母ちゃんがご機嫌だからだよ」と応えたのですが、「あ、そっかー」と大笑いになりました。

ところで教育のプロとして言い切れるのは、健常の子も含めすべての子が「母が安心なら子も安心」という生き物だということです。しかし無理して作った笑顔ではダメで、お母さん自身が心から「あー楽しい」「幸せだなー」と感じられていることが大事で、地域と支えつなげてくれる先輩母さんが近くにいない現代では、母自身は「ここに行けば気持ちいいしホッとできるし笑顔になれる」という場所を外に持てるようにしてください、というも伝えていきます。外で働いているお母さんもまったく同じで、働く喜びを心から感じていてくれ

れば、子はすぐに感知します。時間に追われるという当然の状況に、外注を含めどんな他人に頼ること等で解決策を見出していけばいいのですが、イライラし始めると子も崩れてしまいます。

ちなみにお父さんたちには、子どもの健全やかな成長を望むならば、最大関数が母の安心と笑顔なのだから、外の本業としての仕事と同様に、家の仕事として妻を自由研究（縁あって結ばれた一人の妻は、きょうだいのあるなし、育った家の家風、出身地域、趣味嗜好、全員異なるからこそその自由研究です）して笑顔でいられるように貢献しよう、と伝えています。

私ももちろんやっています。講演会では、「下の子が思春期に入るまでは臥薪嘗胆、父ちゃんたちががんばりましょう」と言っていますが、障がいの特性で何歳になっても純粹に母を信奉し喜ばせたい息子なので、自由研究はずっと大事なのです。

今回もちゃんと考察しまとめました。長年の研究成果としての持ちカードであった「旅の企画をこちらから提案する」も効いたし、百年に一人の天才・大谷翔平を目撃できたこと、観たいねと言っていたホームランも盗塁も観られたこと、おまけのラッキーでゴールドボールヘッド人形が当たったこと、帰りの飛行機でいまや有名な大社長である私の昔の教え子と席が近く、彼が「先生！」と持ち上げてくれたこと等々、

要因はいくつも考えられるのですが、何といても生デコピンを思わず観られたことが、彼女の心を大きく震わせたなと感じました。「すごい」のカード群のなかに、思わぬ「かわいい！」カードがあったことで、心から「楽しかったー」と感じてもらえたのではないかな。そう考えています。

以上、デコピンによって幸福にさせてもらった一夫婦の、妻研究の報告でした。二人で頑張る若いご夫婦の参考になれば幸いです。

花まる学習会 高濱正伸

秋～冬も企画が盛りだくさん！

雪国スクールもはじまるよ！

花まるだより 2024年10月号
(令和6年10月15日発行)

編集・発行 株式会社こうゆう
花まる学習会
発行人 高濱正伸
企画・編集 久慈 葉津紀・生井 ちま
編集 金井 彩・清田 奈甫
坂田 翔・高橋 奈穂・平山 真康
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子
印刷 アークランド株式会社



真っ白
な
世界



花まるの
スキーは
みんなて楽しい
が
いっぱい！

高濱が、花まるの教室長をちょっとおちゃめに紹介するこのコーナー！「タカタコ」は、高濱による他己紹介で教室長を深掘りします。2024年度のテーマは、「私の母」。各教室長が実際に自分のお母さんや家族に改めてインタビューした内容を、高濱がまとめました。



サマースクール
花まる
子ども冒険島
～無人島～を
のぞき見



誰もが未来を予測できない激動の時代。
子どもたちに身につけてほしいのは、
「どこにいても自分で生き抜く力」。

電気、水道、ガス。普段の生活にあるものが無人島にはない。
「ないなら工夫すればいい」「考えてやってみればいい」という
シンプルな環境で、子どもたちが頭を存分に使って工夫し、
挑戦を繰り返して、達成感を得られる。それが無人島だ。

花まる子ども冒険島(来島)

広島県東広島市安芸津町から
船で20分の瀬戸内海に浮か
ぶ無人島。村上海賊の来島と
は別の、もうひとつの来島。
新広島市民球場4つ分の広さ
がある。未知が詰まった野外
体験フィールド。



私の母は「願っていることがだいたい実現しちゃっている人」だそうです。幼い頃の夢が保育園や幼稚園の先生でしたが、その通りの道を歩きました。3人姉妹を育て終わったあとは療育に興味に移り、すぐに実現しました。いまは母が「(ある療育の子が) ○○をできるようになったんだよねー」と言うと、私も花まるのエピソードを語る「教え子自慢」をする時間が最高に幸せです。|| 尾形京香 (ぐりーん)

仲間と協力して
荷物を運ぶよ!

到着!

船に乗って
無人島へ!

カメの形みたい〜!

磯歩き

牡蠣、カニ、カメノテ
などの貝類や甲殻類が
たくさんいるよ!

テント設置

島でとれた食材でご飯作り

海でのクールダウン

森探検

火の主燃料となる、
薪や焚き付け材を集め
に森へ!

花まるコミュニティあきつ (通称: はなコミあきつ)

@広島県東広島市安芸津町
クラウドファンディングを経て、2024年に元旅館の内装を一部リノベーションし、完成。過酷な無人島での野外体験を支える、安心安全な本土拠点。ここでエネルギーをチャージして、元気になったらまた無人島に挑む。そんな場所を目指します。地域に根ざしたコミュニティスペースとしても活用されています。

花まる子ども冒険島
Instagram



海水を運び入れ、
火をおこして
湯をわかす

海水ドラム缶風呂

夜の語り会

「花まる子ども冒険島」開拓のため、カトパンに続いて広島に引っ越した職人。港がある安芸津町に新たな拠点もでき、ますます力が入ります。そんな2人の日々を、現地からレポートします。

職人の



無人島

船①

3月の早朝。閑散とした高速道路を突っ走り、私とカトパンは岡山の備前へ向かっていった。車外を流れていく寒々とした景色とは逆に、我々は期待で少し熱を帯びている。新しい船を取りに行くのだ。新しい船といっても「花まる丸」を乗り換えるわけではない。花まるにとつて2艇目の船が納船されるのである。「えっ!? 2艇もいるの?」という声が聞こえたような気がするのでお答えしよう。

に体験にいったら本気のメイウエザーが降りかかってくるような状況は絶対に避けなければならぬ。また、2艇あればどちらかにトラブルが起きても何とかできるので冗長性が高まる。実際、カトパンがひとりで島に作業に出たとき、係留ロープがスクリューに巻き込まれて船を動かせなくなったことがあった。そのときは、連絡を受けた私がもう1艇で助けに行つて事なきを得た。そんなわけで、2艇の船は二重の安全策としても必要なのである。ここまでは、ガッテンしていただけたらだろうか。

子さんの案である。そして、船体にプリントする字も素敵な毛筆がいいよね、ということになり花まるの先生のなかから書道の心得のある人をお願いした。お祖父様から書の手ほどきを受けていたという、生駒春佳(まっしゅ)さんである。生駒さんは「書道らぶ」という花まるの書道イベントを開催するほどの書道愛の持ち主。うつつつけの人物だ。こうして、命名の準備は整った。花まるの新しい船。その名も「夢来丸」。

(つづく)

花まる学習会 橋本 一馬

職人 橋本 一馬

花まる学習会神奈川県北ブロック教室長。前職が家具職人だった経歴から「職人」のミドルネームを持つ。家具製作技師、狩猟免許、ブッシュクラフトアドバイザーなど、ちよつと変わった資格や経歴を活かし、「メシが食える大人」に独自の視点でアプローチを行うことが好き。広島で2年間無人島開拓に携わったのち、現在は神奈川でキャンプ教室を企画中。



これまでの開拓記はこちら!



カトパン 加藤 崇彰

花まる学習会 無人島プロジェクト責任者。学生時代から、花まるの野外体験に深くかかわってきた。現在は広島県へ移り住み、オンライン教室の教室長を務めながら、開拓団の受け入れや無人島開拓の準備を進めている。



まっしゅの直筆による船名。
この字が船体に写される。



無人島企画や最近の様子を配信中!
ぜひ登録してね!



花まる子ども冒険島公式LINE

広島を出て高速道路を2時間半。ようやく岡山の船着き場に到着すると「夢来丸」は陸に上がった状態で進水を待っていた。花まる丸より大きな船体。強いエンジン。閉め切れるキャビンに標準装備のGPS。計器類はデジタルで表示される。花まる丸がゲームボーイだとすると、夢来丸にはDSのような発展と新鮮さがある。かっこいい。早速、船の前でカトパンと記念撮影をしていたら、撮りすぎて事務のお姉さんにちょっと笑われてしまった。

船首には小さいながらもくす玉が吊っており、船体はパーティーで使われるようなキラキラした帯状のモールド飾られている。進水式の準備だ。カトパンが祝いのシャンパンの栓を抜き、船首と船尾に振りかけて、くす玉を割る。「祝進水」と書かれた小さな垂れ幕が現れた。ささやかな進水式を終えると、お店の方がクレーンを操作して夢来丸を吊り上げる。まるでカバみたい、巨大な動物が体にはベルトを巻かれておとなしくどこかへ連れて行かれるようだった。

クレーンで海上まで移動した夢来丸が、そのままゆっくりと海に降ろされていく。ベルトがたわんで船が海上で自立

すると、ちょっと居心地の悪そうだった姿がすっかりと船になった気がした。船体がスラッとしていて美しい。やはり船は水の上にあるべきものなのだ。

カトパンが船の説明を受けている間に、車に積んできた20Lのガソリンタンクを4つ船に運び込む。私は車で帰るが、カトパンはこれから夢来丸に乗って安芸津まで帰る。夢来丸の大きなエンジンでも海路だと4時間ほどかかるので、途中でガス欠にならないよう燃料をこたま積んでおく必要があるのだ。もちろん、カトパンの燃料(昼食)も購入済み。海にはガソリンスタンドもコンビニもないので、すべてを事前に準備しておく。

船の最終チェックが終わると、いよいよ出航の時間になった。先に、先導役の船が出る。初めての場所なのでお店の方が沖まで案内してくれるのだ。カトパンがキーをひねると夢来丸のエンジンが静かに唸り、船が目を覚ました。グッドモーニング、グッドセーリング。っていう言葉がどこかの国にありそうだなーと思いつきながら架空の格言を添えて船出を見送る。船が後進してゆっくりと桟橋から離れ、カトパンが手を振る。船首が沖へ向くと後進が止まり、一瞬あたりが静かになった。直後、エンジンが轟音を立ててスピードが上がる。夢来丸はきれいな

線対称の波を立てて遠ざかっていった。私は進水の様子を高濱さんのラインに送り、備前をあとにする。

4時間半後、カトパンは無事に安芸津に到着し、夢来丸の納船は無事に完了した。夢見る子どもたちを乗せてまっすぐに来島へと海を走る、夢来丸の姿を見るのはもうすぐだった。

花まる学習会 橋本一馬



待望の2番艇、夢来丸の進水式。
写真を撮りすぎてお店の人が笑っていた。

Enjoy Camping

職人がお届けする
新しい野外体験

ハビキャン

「無人島が甲子園なら、草野球のような野外体験も必要だ!」そんな思いから、毎月開催の日帰りキャンプ企画を始めました。Habit(習慣)とCamp(外遊び)の掛け合わせ、その名も「ハビキャン」。外遊びのきっかけに、無人島に行く前の練習に、ぜひご参加ください!



ハビキャン
活動内容

- ・一人ひとりの焚き火・料理
- ・森遊び・川遊び・釣り
- ・竹トンボ など





こんげつ

今月のレインボータイム

【奥義！ハトメ返し！】

正方形のピース4枚に、丸い回転パーツを付けました。

例のように、くると回って模様が変わる仕組みです。

それぞれの問題の図形は、あ～えのうちどれに変わでしょうか。

(折り紙を使って確かめるのもおすすめです。)

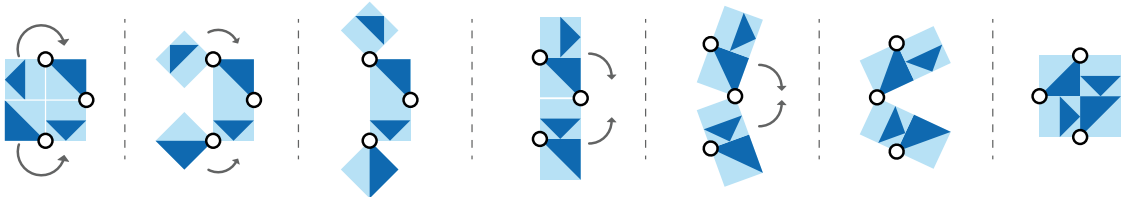
出題：坂田翔 (花まる学習会)



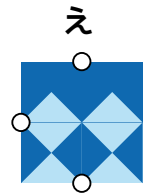
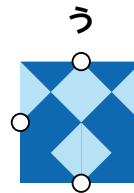
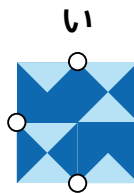
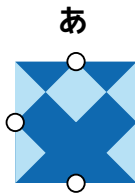
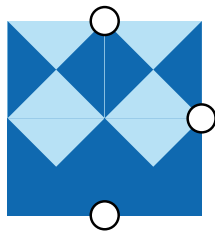
解答はこちら！

例：動き方のイメージ

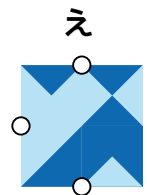
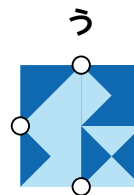
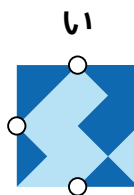
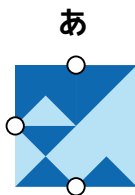
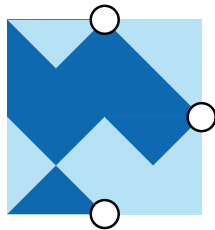
まわって ▶ まわって ▶ まわって ▶ がしゅん！ ▶ まわって ▶ まわって ▶ がしゅん！



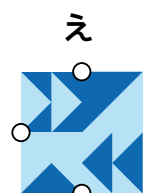
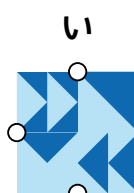
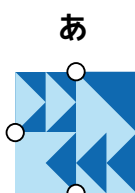
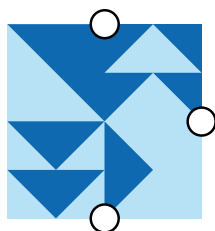
レベル30



レベル70

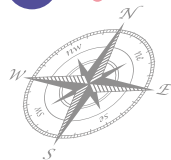


レベル99



今どうしてる？

卒業生物語



花まる学習会・スクールF.C卒業生のその後に迫ります。
第26弾は、高濱と川波が、伝説の卒業生にインタビュー！

ようこそ先輩!!



あいり 愛織さん

【花まる学習会】(小1～小5)
【スクールF.C】(小6～中3)
【進路】公立中学校→私立高校→中央大学
【現在】俳優

■花まる・F.Cの思い出

川 野外体験はどんなふうに愛織の心に残っている？

愛 出発するまでは不安でいっぱいだったけれど、友達ができて笑い合えた、楽しい思い出ばかりです。隣のテントの子に怒られるくらいに大笑いした思い出もあるし、いまでも名前を覚えている子もいます。

高 知らない人のなかに飛び込むのは勇気がいるけれど、仲良くなれるものすごく楽しくなる。それが野外体験の醍醐味だよ。

愛 スクール中の不思議な体験を小説にしたこともあります。

川 すごい！ どんなお話？

愛 4年生で参加したサマースクールでのことです。2つ年下の女の子と並んで座って話していたときに、ぱっとその子の顔を見たら自分の顔のように見えたんです。それまで似ていると感じたことがなかったのに、なぜかその瞬間だけまるで鏡に映った自分のように感じ、まじまじと見つめてしまいました。スクール後もその子のことはずっと気になっていたのですが、残念ながら再会できず…。

高 小説にすべき情景だなあ。

川 花まるの授業はどうだった？

愛 たんぼの時間が印象深いです。私は

音楽を聴くように小説を読むのですが、その起源はたんぼの時間にあるのではないかなと思っています。物語の内容や意味よりも、文体のもつリズムの心地よさに惹かれるんです。自分で文章を書くときも、ことばの手ざわりを最も大切にしています。そういう感覚をつかめたのは、たんぼで幼い頃から古典の名文に触れていたからだと思っています。

高 意味を問わず素読に集中するたんぼの時間を、まるごと堪能してくれたんだね。

愛 あとは、キューブキューブのかけ声がいつまで経っても忘れられません。立方体の絵描き歌も。講師として花まるに戻らせていただいたときも、完璧に再現できました。

川 愛織にとって花まるとは？

愛 私にとって花まるやF.Cは、ふとしたときに帰ることができるもう一つの家です。特に受験を目前に控えたF.Cでの日々は、もやもやしたり悩んだりするたびに先生方が親身に話を聞いてくださって、本当にお世話になりました。

■花まるっ子たちへのメッセージ

愛 花まるっ子のおみなさんに「世界は思っより広い、だから大丈夫」

と伝えたいです。自分は変わっているのかもしれないと悩む時期もありましたが、たくさんの人と出会い、対話をしていくと、新しい発見があって、一人ひとりがユニークな存在であることに気づきます。知識や経験はきつとあなたの味方になってくれます。だから、自分や他人のことを傷つけることだけはしないで、怖がらずに世界を広げていってほしいです。

川 愛織だからこそ伝えられるメッセージだね。これからどんなことに挑戦していきたいの？

愛 いまは国内での創作活動に力を注いでいて、俳優として活動しながら、映画を企画したり、筆を執ってメディアに投稿したりしています。語学や異文化に興味があり、海外に行きたいとも思っているのですが、その機会を楽しみにしています。

高 おお。これからの活躍も楽しみだな。

川 応援しているよ！

愛 ありがとうございます！





油性ペンで模様を描き込んだペットボトルに、あさがおの花を入れて色水ボトルが完成。先生に見せる、と大切に持って登園しました。「ここが顔」「底にも描いたよ」「あさがおのお花を入れた」と誇らしげに説明していました。

Rinせんせいより

きれいな色水ができましたね！ あさがおの花の色がこんなにも美しく透明な色水になることもそうですが、お花が水に浮かんでいることで、より複雑な色の観察ができますね。ペットボトルにペンで描いたことで、自分にしかつくりえない作品になったんですね。「底にも描いた」ということばから、立体物をあらゆる角度から見つめながら、「こんなところにも描けるぞ!」という彼女の発見が、喜びとして伝わってきます。作品について語る作者の表情をしていますね。



Rinせんせいの
りんごの木

あなたのじゆうを
表現しよう

「あなたは どうしたい?」
自分のころに 向き合った
子どもたちの 作品展です。



しのちゃん (東京都)



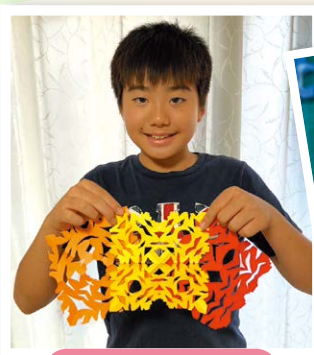
つくってみたよ動画を見て、初めにつくった3色。赤で虎の柄をイメージ、オレンジでカッコいい戦争のマーク!? や国旗をアレンジ、黄色は複雑な虎をイメージ(目や鼻もあり!)。つくるたびに手が込んでいき、黄色が最も複雑でお気に入り! 折り紙を自在に回して、切り込みをどんどん細かく入れて、ひと折りひと折り開いて、どんな模様がでできるのかがおもしろかった様子。

後日、また1つ(黄色2つ目)つくりました。できあがった作品の背景にさまざまな色画用紙を置くとイメージが変わることも楽しくて、夢中で遊んでいました。色のマジックにびっくりです。

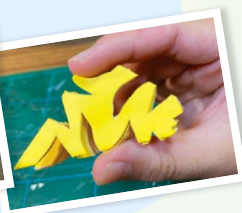
Rinせんせいより

何度も折って切って開いてを繰り返し、できあがり予想しながら創作したことが伝わってきますね。(確かに黄色は虎に見えます!)「思考と行動が同時」で、「走りながら考える」時代の幼児の脳とは違い、振り返ったり計画を立てたりすることのできる高学年ならではの制作過程だとわかります。

時間をおいてさらに制作をしてみて、背景の色との組み合わせに気づくあたりからも、自ら学びを深めていく姿勢が見えますね。気に入った色の組み合わせで、飾ってみると素敵なギャラリーになりそうです。



そうたくん (埼玉県)



今月のARTレシピ

『ダンボールARTのブローチ!』

今回は、みんなが大好きなダンボールで小さな作品をつくって遊んでみたよ。2mmくらいのあまり分厚くないダンボールだと、子どもでもハサミで切ることができます。

このテーマは、10/6(日)に Shining Hearts' Party の会場でおこなったミニWSでもつくってみましたよ!

「ダンボールART」は、ほかにサプライズボックスやフレーム、オーナメントなど全部で4本の動画があるよ。自由に創作してリサイクルアートを楽しんでね。

https://youtu.be/Y7GY1P2o_4I

Rinせんせいがつくってみたよ!



つくり方を
動画で
見てみよう

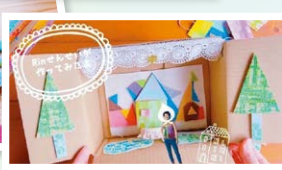
じゅんびするもの

- ・ハサミ・ダンボール・安全ピン
- ・マスキングテープ
- ・色えんぴつ、クレヨン、ペンなど
- ・ボンド

みんなの
おうたART作品を
待っています!

- ・レシピ部門
- ・じゆう部門

Rinせんせいに
おくってみよう!



こころと頭を
同時に伸ばす
幼児期の子育て

Rinコラム

61

没頭の先にある情熱

—自分で世界を肯定していく—

創作活動に没頭している間、子どもたちのなかで一体何が起きているのでしょうか。それは「自分との対話」です。「対話」というと、人と人の間に存在するもの、と考えることが多いかもしれませんが。しかし実際には、内なる自分と対話することのほうが多いのが、人間という生きものです。

創作中の子どもたちは、「もっとこうしたい」という内なる欲求を確かに感じ取り、自分自身と向き合いはじめます。「誰かのために」ではない「自分のための」制作の時間。それが「上手であるか」どうかではなく、表現する過程そのものに夢中になっているのです。

人に言われてやる何かではなく、そもそも正解のない世界で、自分自身の正解を探し続ける。

人が自分で主体的に生きていると感じるためには、他者からの承認や感謝のことは

のほかに、自分が判断している、自分が決めている、という実感を持つことが必要です。大人にとっても、幸せの軸はそこにあるはず。

幼児期にその実感を得られるのは、夢中になって遊んでいるときです。熱中する時間を忘れて没頭する、その感覚を持てているかどうかを、大切にしておいてください。子どもたち自身のなかにある、学びたいこと、がうかがいがあってくるからです。それに向かって自分で内容をデザインできる、それが「創作活動という遊び」主体的な学びなのです。よりおもしろいほうに自由にルールを変えながら遊び続ける外遊びも同じです。

「好き」という感情は、「肯定」です。好きなことがあるということは、世界を肯定していることになる。つまり、世界を好きになるということになる。

夢中になる自分、というものを持っていると、必要のない自意識にはとらわれず、心無いことばに邪魔されず、自分らしさを追求できるのではないのでしょうか。

花まるの年中・年長コースでも、新しい知識や発見や驚きを、感動とともに仲間と分かち合い、それぞれが「思考と創造の体験」に没頭する時間があります。

そのとき私たちが、作品の出来・不出来を評価することはありません。なぜなら「対話」する過程そのもの、夢中になって没頭する体験が人生に及ぼす影響を意識するからです。

子どもたちが自分と対話しながら夢中になって創作していくときに見せるあの真剣な横顔は、どう見られているか、どう評価されるかなどは微塵も考えていない表情で、まさに没頭の瞬間です。だからあんなに美しく、声をかけることもためらうほどの光を放っているのです。

それを人は、情熱というのかもしれない。

Rin (井岡由実)

ART × education



INSTA LIVE

@hanamarugroup × @rinokarinab

2024 11/8 Fri.
12:40-13:00

Rinの「こころと頭を同時に伸ばす」子育て講座

Atelier for KIDs



全国から
参加可能!

おうちアトリエコース

素材セットとおたよりがご自宅に届き、お好きなタイミングで制作をします。

Zoom (授業日の午後) またはLINE 公式アカウントのやりとりにて、鑑賞会も行います。

詳しくはHPをご覧ください。

参加費：1名2,500円 (送料・税込)

申込締切：11/4 (月・祝) 19:00

11/17(日) 10:30～12:00 フェルトコラージュ

【対面コース】

対象 年長～中学生
定員 30名 (予定) (お茶の水花まるラウンジにて)
参加費 1名3,500円 (税込)
申込締切 11/4 (月・祝) 19:00 <https://www.hanamarugroup.jp/art-edu/news.php>

Rin (井岡由実)

花まる学習会取締役、「ARTのとびら」主宰。児童精神科医の稲垣孝氏とともに、心を病んだ青年たちへの専門的な対応に専心。花まる学習会年中・年長向け教材開発に携わり、冊子『1年生になる前に』では、幼児期に伸ばしたい能力や感性の教育について論じる。著書に『こころと頭を同時に伸ばすAI時代の子育て』(実務教育出版) ほか。

RinさんへのSNSなど
すべてのリンクは
こちらから▶





勝谷 里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、小4・小2・2歳児の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんすう初級』（学研プラス）ほか



いま手に取っている本から、子どもを観察してみる

いつもは一つの事例を深掘りし、そこからインスピレーションを受けた絵本を紹介させていただいているこのコラム。今回は、最近、うちの子たちが手に取っている本からのエピソードです。

2歳10か月 次女



『いただきますあす』
わたなべ しげお 文 絵
おおとも やすお (福音館書店)

比較することではないのですが、上2人の同じ月齢の頃と比べてしまつと絵本を手に取ることが少ない次女。上2人には欠かすことができない読書の習慣が、なかなかできていません。

ただ、最近気づいたのは、「お話（ストーリー）のあるもの」はあまり聞きたがらないが、「赤ちゃん絵本」のような色や形だけのもの、単純な繰り返しがあるものは、自分から手に取りがち、という点です。『いただきますあす』という本は、くまの男の子がごはんを食べようと奮闘する本。ページ数も文字も少ないですが、繰り返し自分で開いています。

よく観察すると、くまちゃんと一緒に「やっちゃった」という顔をするのを楽しんでいたり、絵のなかの食事をぱくぱくと食べる真似をしたり。その絵本とともに躍動している次女の姿がありました。

これは、1歳ととなっている本。親としては「2・3歳向けの本にも挑戦してほしいなあ」という気持ちでどこかあるのでしょう、図書館で次女に選ぶ本も、「ちょっと上の年齢のもの」という基準で選んでしまいがちだったのを反省しました（おしゃべりが早かったで、だからこれくらいの本も読めるかな？という変な期待も反省）。これは、絵本に限らず、いろいろな場面でやりがちな落とし穴かもしれません。親側の「ちょっと挑戦してほしい」よりも、目の前の子どもがいま何に躍動しているか（好んでいるか）を、世の中の基準ではなく、見たままのものから判断しよ

う、という戒めの事例でした。

小4 10歳 長女



『もったいないばあさんと考えよう世界のこと』
真珠 まりこ 作・絵
(講談社)

最近、少し読書をする機会が減っていた長女が、めずらしく「学校で読んで続きが気になるから買ってほしい」と言ってきた本。いろいろな国に住んでいる「9歳」の子が直面している問題について触れられています。学校に行けず働いている子、戸籍がない子、爆弾によって足がない子……。そんななか、日本の子の悩みは「食べ物の好き嫌いが多くて怒られる」。

思うところがあつたのでしよう、花まるのオンライン教室のその週の作文に、「（日本の子の悩みは）ほかの国とくらべたらしょうもなくみえてしまいます」と、感想を書いていました。

で、ここからが、子育ては一筋縄ではいかないなあ、と思うところ。では長女が「好き嫌いをしなくなった」とかという、まったくそんなことはありません。嫌いなものは食べない、お菓子でおなかがいっぱいではなが食べられない、なんてこともあります。「想いを馳せる」とこと、「自分事として、行動変容につなげる」のは、別……（大人でも、難しい部分ですよね）。

食べ残しを注意したくても「作文でこんなこと書いていたよね!」と突き詰めるのは高学年女子にはきつと逆効果、と思いつつこらえながら「世の中には、ごはんを食べられない人もいるんだよ」と言葉を投げかけてみます。

実は、わたしは、この言葉には思い入れがあります。なぜなら、やっぱり自分が小学校高学年のときのこと、自分の母親とみそ汁の食べ残しのケンカになった際、同じことを言われて、「だったら、このみそ汁をその人にもっていったらあ

れはいいじゃん!」とへらず口をたたいたことを鮮明に覚えているからです。

なぜ、忘れないのか。改めて思うと、あれは、私が明確に「母親を傷つけよう」と意図してはなつた、最初の言葉。だったからな気がします。言つたあとに自分でも衝撃を受けて、だからこそ忘れないのでしよう。そして、時がたち、いま私はそのとき母から伝えられたことと同じことを、自分の娘に伝えたいと思っています。

「ああいへはこういう」状態になってきている長女。つい口を出してはぶつかり、の連続ですが、子育てが「待つ」「見守る」「フェーズに入ってきているの」もわかります。

それでも、長女がこれから出会ういろいろな言葉、考え方がますますにはわからなくても、心のどこかに降り積もっていく、迷ったときの支えになる人生の土台になればいいなあとも思い、うつつしげられることと覚悟で伝えたいことは伝え続けるか。そんなことを考えるきっかけを、この本にもうしました。



花まる学習会 勝谷 里美

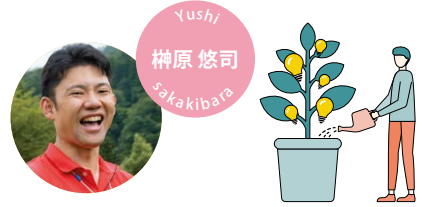


『マンガでわかる! 10才までに覚えたい社会のしくみ』

一政治・経済・生活・国際・SDGs一

高濱 正伸/加藤 崇浩 監修 (永岡書店)

自分のことはなかなか話さなくなる高学年ですが、意外と「社会」や「世の中」についてなどを切り口に話してみると、その子の内面で感じていることが伝わってきますよね。ダイバーシティって？SDGsって？ など、ちょっとしたことを疑問に思い出す低学年の子と一緒に、気になるところからちょっとずつ読み進めるのもおすすめです。



“火に油”を回避せよ！

新米パパの私は妻の心情をわかっていないことが多々あり、それゆえ「なんでそんなに怒るのか?」「そんなに厳しくしないで」と思うことは少なくありません。

2歳の娘を妻がアンパンマンミュージアムに連れていく日のこと。アンパンマンが大好きな娘は「アンパンマンいく!」と前日から大興奮。朝早く起き、「着替えるよ」と声をかけられて服をサツと脱ぐところまではよかったのですが、興奮からか服を着ようとしません。裸で部屋を走り回ったり、「この服いやだー!」といたずらにホイッと投げたり。段々と妻の顔から笑顔が消えていきます。

(あ、また始まった……)

もう見慣れた光景からこの先を想像する私。数分後、「もういい、今日は連れていかない」

(まあこうなるよね……)

それを聞いてもまだ笑顔で「だめ、いく」と無邪気な表情を浮かべている娘。しかし「もういい。勝手にしなさい。連れていかないから。」と無表情で言い放れると、これは本当に連れていってもらえないと感じたのか、「いやー!」と言って泣き始めます。いや、泣き叫び始めます。「アンパンマン行きたい〜!」「連れていきます」「アンパンマンー!」「もう知りません」「いやあ〜!」

ママと行きたいと言っていたこと、それから私は仕事の日だったこともあり、迷いましたがスケジュールを変更して私が連れていくと決めました。「パパが連れていくよ」とその場に言い残して準備を始めました。数分後、別室で準備を済ませて戻ってくると状況が一変。「私が連れていくわ」と妻。「え?」と返すと、妻は娘のほうを見ながら『ママが言い過ぎたね、ごめんね』って謝って、ママと一緒にいくことになったんだよね」と娘はニッコリして頷いています。

「なんだそりや、仕事のスケジュールを変更したのに。だったらそんなに怒らなければいいのに」とはもちろん口に出さずに飲み込み「よかったね!」と笑顔で二人を送り出しました。

数分でなぜ変わったのか。後日、妻に聞くと「お、これは今後也使えそうだ」と思える発見がありました。

あのとき、精神的にも体力的にも疲れており余裕がなかったそうです。まるで感情だけがどんどん山を登っていくようだ。負の感情が湧き上がり続ける、ある種のゾーン状態。しかし「パパが連れていくね」の一言で、ハッと我に返ったと言います。「あ、マズイ。言い過ぎた」「なんで私はあんなに怒っていたのか」「そんなに怒ることだったのか」と。今回は「パパが連れていくね」がそのゾーンを解く鍵になったわけですね。

これを機に、もし今後同じようなことが起きた際はこうするといいいのかと聞くと「一時的に娘を引き離してほしい」とお願いされました。それも何も言わず。無言で妻から娘をサツと遠ざける私の姿が、「あ、いま私言い過ぎている」とゾーンを解く鍵になるようです。

続けて、一応聞いてみました。「ちょっと怒り過ぎではないか? 落ち着いたら?」という言葉ではハッとならないんだよね?」わかっていましたが、もちろん否定されました。「もしそうやって言われたら『じゃああなたが全部やれば』と言うかな」と。ゾーンを解くどころか「火に油」になります。家のことは概ね妻に任せっきりの私はぐうの音も出ません。怒りすぎていたら静かに引き離す。妻の感情を鎮める鍵を一つ手に入れました。

さて、体力的・精神的に余裕がない等から怒りすぎてしまうというような上記のケースとは異なり、これが理由で厳しくしていたのかと理解したことも一つあります。

なんでそんなに厳しいのか、と思う場面は主に三つ。

1. お風呂がかりに髪を乾かさず、いつまでも裸で走り回る
2. 「まだ遊びたい」と帰宅時間や就寝時間を過ぎても帰らない・寝室に行かない
3. 寒くても「この服(薄着)がいい!」と言いつける

割と最近まで「そんな髪を乾かさないうぐら、裸で走り回るぐらいいのに」とか「気の済むまで遊ばせたら」とか「服なんてなんだっていいじゃん」と思っていました。体調を崩すことを怖がっていたら強くならない、と。でもふと、「あ、だからなのか」と思い当たりました。子どもが体調を崩したときに、仕事を休んで病院に連れていき、体調が悪いことで機嫌が悪くなるわが子の面倒を日中見るのは妻。私は子どもが体調を崩そうとあまり関係なく自分のスケジュールが進み、妻はスケジュール変更を余儀なくされる。子どもが体調を崩したときに責任をとるのは誰なのか。そういうところから厳しさがきているのか! とスッキリしました。

妻に「こういうこと?」と答え合わせをしたところ、完答でした。「風邪ぐらいひいたって大丈夫」「そうやってたくましくなっていくでしょ」という考えは、自分でも責任がとれるときに口にしようと思います。



～秋の夜長のミステリー～



『晴れた日は図書館へいこう
物語は終わらない』

緑川 聖司 著
(ポプラ社)

児童書と侮るなけれ！ 推理小説界における
第一人者のアンソロジー (新潮文庫『北

村薫のミステリー館』) にも収録された、本格派「日常の謎」ミ
ステリー。とにかく大好きな主人公が、日々図書館で遭遇する
数々の謎。それらが解けたとき、あなたの心のなかでも何かが
「解かれる」かも——。惜しまれつつも、この第4巻をもってシ
リーズ完結です。



『世界の名探偵 1 デュパン』

エドガー・アラン・ポー 作
戸川 安宣 訳
はみ 絵
(ポプラ社)

シャーロック・ホームズやアルセーヌ・
ルパンなど、世界的な名作古典ミステリー
を小学生でも読みやすい文体と親しみの

わくイラストで描いたシリーズの第1巻。パリを舞台にした
世界初の推理小説『モルグ街の殺人』など3編を収録。最大の
魅力である「真犯人」の姿を挿絵に描いていないなど、随所に
配慮が見られます。これを入りに、いずれは完訳版へのチャ
レンジも是非。



『怪人二十面相
——私立探偵 明智小五郎——
(新潮文庫nex)』

江戸川 乱歩 著
(新潮社)

「小林君、オモシロイ男があらわれたぜ
——。」史上最強の探偵と、史上最狂

の怪盗による世紀の攻防。神出鬼没の怪人二十面相に、名探偵
明智小五郎と我が少年探偵団はどう立ち向かう——？ 帝都・
東京を舞台とした一大決戦をとくとご覧あれ！ 2024年に生誕
130周年を迎えた乱歩による、世代をこえて楽しめるシリーズ。
「ジャケ買い」必至の表紙がとてもしっかり！



『イギリスとアイルランドの
昔話』

石井 桃子 編・訳
ジョン・D・バトン 画
(福音館書店)

実は昔話のなかには、ミステリーや謎解
きの要素を持ったものも多くあるんです。

特にこの本に収められているイギリスの昔話には、ミステリア
スなキャラクターや不思議な出来事の数々が描かれていておす
め。『トム・ティット・トット』は、自分の名前を当てさせる
謎の小鬼が登場するハラハラドキドキのお話。石井桃子氏によ
る秀逸な言葉選びが魅力で、読み聞かせにうってつけのロン
グセラーです。



『放課後ミステリ
クラブ 1
金魚の泳ぐプール事件』

知念実希人 著
(ライツ社)

「ぼくは読者に挑戦する——！」
小学生3人組の「ミステリトリオ」
が放課後に遭遇する数々の事件、あ

なたは解くことができるだろうか？ 『祈りのカルテ』『仮面 病
棟』など映像化作品も多く手がける知念実希人氏が本気で書い
た人気シリーズ。児童書として初めて「本屋大賞」にノミネー
トされた本格的な謎解き物語、ぜひ親子で楽しんでください！



11月 (第7回) 「本×モンスター ～ようこそこの世ならざる者たちの世界へ～」

おばけ、幽霊、妖怪、怪物……。子ども本に登場する、そんな「アナザー・ワールド」からやってきた使者たちは、
文明社会で生きる私たちに何を語りかけるのか？ ちょっと怖いけど魅力あふれる、「この世ならざる者たち」の世界へ
とご案内します。子どもたちの考えた「オリジナル妖怪」や、ゲストによる「怪談」もお楽しみに！

11/14 (木)・11/16 (土) 10:30～12:00
参加費 一家族 500 円 (税込)
申込締切 開催前日の 19:00

<https://www.schoolfc.jp/extension/j-hiranuma/2024/>



全国から
参加可能！



あいざわ しろう
相澤 樹
(リッジョフ)

花まる ころも

心の見つけ方

先日の授業で「作文コンテスト」をおこないました。授業への導入として、過去の優秀作品が掲載されている文集のなかから数作品を読み聞かせたところ、これがなかなか好評で「もっと読んで!」という声が絶えません。ほかの子が書いた作文を知る機会には「おたより作文」を読む以外にないので、その時間がとても新鮮だったようです。読み聞かせをした意図は作文の「題材」について子どもたちに感じてほしいことがあったからなのですが、さすが花まるっ子です。しっかりと汲み取ってくれました。

「何か、普通のことだね!」

そうなのです。数ある作文のなかで花まる大賞や学年優秀賞に選出されている作文の多くが、日常生活のありふれたことをテーマに書かれているのです。しかし、読み手の心をしっかりとつかんで

る。この「日常を切り取る視点」は、作文を書く技術以上に教えにくいところだと思います。

「作文に書くことがない」という言葉を

発する子がいいます。そう言いたくなる気持ちとはとてもよくわかります。背景にあるのは「作文を書くに足る刺激的なイベントがない」ということがほとんど。「本当に書くことない?」と問うと、「うん。どこにも出かけていないし、楽しいこともなかった」という返答が多いことから明らかです。つまり「イベントを書く」という妙な固定観念がいつしか形成されてしまっているのです。そういう前提ができあがってしまうと、書くことが楽しいことではなくなり、書かなければいけないから書いているという精神状態に陥ってしまいます。ちなみに私も小学3年生まではそうでした。夏休みの宿題で課されていた絵日記は苦痛以外の何物でもありませんでした。子ども心に「毎日、そんなに書くことないよ!」と題材探しで涙を流し、一番不得意だった「絵」まで描かないといけないことに絶望する。当然の結果として、夏休みの初日から最終日まで歯抜けのような絵日記ができあがり、途方に暮れることが晩夏の風物詩でした。一方で、作文を書くことを苦にせずむしろ楽しみにしている子たちを観察

していると、まず「題材探し」というところではまずきません。常に書きたいところがある状態のように見えます。つまり、作文を書く以前のところで分岐点があるということです。

今回の作文コンテストを通して子どもたちに伝えたかったのは「書き方」ではなく「書くことの見つけ方」。心を打つ良作の共通項は「特別な事柄を題材にしない」ということに気づいてもらうことでした。「何か特別な日のことを書かなければいけない」という縛りがなくなると、途端に自由になる子が増えるのです。

かわいらしかったのは、ある教室の1年生の男の子。彼が私に近づいてきて言ったのは

「先生、いま、心でアイスを食べたいと思っていることを書いてもいい?」

もう、まさにそう。その通り! 彼が至った境地はこの先ずっと再現できる「心の見つけ方」だと私は思います。

「アイスがたべたい」

ぼくは、アイスがとてもたべたいです。きょう、くるまでアイスをたべてきました。とてもおいしかったです。アイスをたべたらチョコのあまいあじが口の中にひろがります。アイスはチョコアイスです。でも、おふろあがりたべるアイスがさ

いこうです。おふろあがりのアイスは口の中にいれると口の中がちよっぴりめたくなります。

何とも微笑ましい作文で、そして、心にグッとくるものがありますね。読み手の心を打つ作文に共通しているのは、書き手の人として抗えない、本当は認めたくないようなところまで、俯瞰して正直に描写されていることかもしれません。読ませようとしているわけではなく、自分の心のうちにある言葉を並べるだけでも圧倒的な強さで読み手に伝わります。今回の作文コンテストを通して「日常のなかにある微かなひっかかり」をしっかりと観察する術を少しでも得てもらえていれば嬉しいことです。

花まる学習会 相澤樹



花まるの
教室長を
紹介します!

Hanamaru Family 花まるファミリー



…オンライン アルゴ …アルゴクラブ …無人島 FC …スクールF C Flos …フロス …アノネ音楽教室 GONOU …GONOU 囲碁教室

きょうしつちやう じゆんぱん しょうかい たの
みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに!



い い ざ ち か
伊井 祥花

東京南 東京都



い し ず た か し
石須 孝志

東京西 埼玉県



お か も と ゆ う き
岡本 祐樹

東京東 アルゴ GONOU 神奈川県



お ぐ ら も も か
小倉 百華

神奈川北 神奈川県



お せ ど り ゅう
尾瀬戸 涼

東京南 千葉県



く さ か い み ゆ
草替 美柚

東京西 アルゴ 神奈川県



く り ば や し え い い ち
栗林 英一

東京東 FC 東京都



さ さ き ま さ ね
佐々木 真音

東京東 島根県



す ず き
鈴木 あかり

千葉 三重県



と み な が ま こ
富永 真子

オンライン 茨城県



は だ の た つ や
秦野 達也

神奈川北 アルゴ 神奈川県



は る き み つ ゆ き
春木 満之

東京南 島根県



ふ じ え だ し お り
藤枝 詩織

茨城 茨城県



ま ち だ あ き ひ ろ
町田 光優

東京東 東京南 千葉県



む ら た ひ ろ あ き
村田 寛典

千葉 千葉県



や な ぎ さ わ は や と
柳澤 隼人

東京東 東京都



や ま ね ひ ろ と も
山根 大知

東京南 鳥取県



た か は ま ま さ の ぶ
高濱 正伸

○○○ 熊本県

リーダーネーム

名前

所属

出身地

サマースクールや雪国スクールで会おうね!

10月の誕生花は ガーベラ

花まるだよ！

2024
109

Hanamaru
Monthly
Newsletter

はまる学習会

はまる学習会



2024年9月

夏 子どもたちとともに

今年も夏が終わりました。7月に原因不明の右肩の激痛に襲われました。水平の姿勢になると肩甲骨や肩に強烈な痛みがあり、病院や治療院に行っても大きな改善はありませんでした。仰向けに布団に寝られず初期10日は机に座って睡眠を取るありさまでしたが、教え子の柔道整復師さんの親身な世話などもあり、何とか一年の一番の楽しみであるサマースクールに参加できました。子どもたちの笑顔に触れるとパワーをもらえます。各開催地でみんなと班写真を撮ったりクワガタ体操をしたりするなかで徐々に改善していったのですが、これはもしかして「子ども治療法」というメソッドになるのではと感じたほどでした。

大きく改善したと感じたのは、無人島の6日間のコースに顔を出したときです。その日は島滞在と島滞在の間の日で、安芸津の港にある宿泊施設「はなコミあきつ」に子どもたちがいる日。私が到着すると14人の子どもたちが玄関にワーツと集まってきて、真っ黒に焼けたテッカテカの笑顔で大歓迎してくれました。会えて嬉しいという人の表情は、何と大きな力をくれることでしょう。さて驚いたのは、一人の中学生のWくんがいたことです。彼は昨年の「高濱先生と行く修学旅行」に参加した絶対に忘れられない一人だったのです。彼は天才系グレイゾーンに生きる、実

に将来しみなタレント。そういう子にありますが「みんななどの集団行動に合わせる」ことが苦手。初日の夜、夕食の時間なのにホテルの読書コーナーから動きたくないと言いつ張るのです。本が大好きな心は美しいけれど、彼の将来を考えるとここは強く指導しなければなりません。何回ものやりとりがあったあと、私は10年に一度あるかないかの激しさで叱ったのです。修学旅行終了後になっても「あのときは言い過ぎたかな」と感じていた、私の胸のなかで小さな苦みの記憶となっていた子が今年も参加してくれている！

インタビュすると相変わらず愛想笑いがないマイペースなのですが、中学生になっても参加した理由がフルっていました。「キャンプが楽しかったから、また来たくて、アノネ音楽教室に入った」と言うのです。届けたスイカでスイカ割りもしたのですが、そのとき「俺は高濱先生にはメチャクチャ怒られたんだ」と班メンバーの小学生に話していました。いま思い出してもシンプルに「あれが良い指導だった」とは言えませんが、真心は伝わっていたんだと感じホッとしました。

さて施設の一階はカトバン（加藤）とアヒル（荒井）の二人が自分たちのデザイン力で構築したスペースなのですが、登り梯的な大きな樹木のオブジェがあったり中二階の秘密基地

的なスペースがあったりして何とも居心地がよい。そこで男女に分かれて入浴する時間に、中二階でそれぞれと雑談しました。男子たちは「自分のお母さんが怒ったらどれだけ怖いかな」「合戦になり爆笑でした。「うちのお母さんが怒るともう……もう……、家が噴火するんです」「うちの母さんはモノを投げてるんです」「これ言うなって言われてるんですけど、フライパンで叩かれました」「テレビのリモコンを渡せと言われたのにしばらくザツピングしてたら急に『おら！ いつ渡すんだコラ！』と怒鳴られました」等々。

女子はちょっとしたファンクラブ状態のやりとり。「お母さんが先生のこと大好きですよ」「私も前から大ファンで、講演会に連れていってもらったこともあるんですけど、先生が真横を通ったとき、声をかけようとしてるうちにサーっと行っちゃったんですよ」という感じで、どのリーダーもやる名札へのサインをしたときも、胸に抱きしめて喜んでくれる。

この男女それぞれとの雑談タイムは、文字通りの薬となったようで、帰りの車のなかで「あれ？ 肩の調子がよいぞ」と感じたほどでした。

実はこの何気ない雑談にこそ幸福はあるというのは、前から思っていたことです。管

新刊情報

『地頭がよくなり生きる力がつく 日本の昔ばなし25』

高濱 正伸 監修
(西東社)



高濱式読み聞かせメソッドでぐんぐん育つ！
定番から、1・2年生の教科書に掲載されるもの、おすすしたい知る人ぞ知る素敵なものまで、いまこそ読んでほしい「日本の昔ばなし」を25話収録。時代を越えて語り継がれてきた昔ばなしは、子どもを引きつける強いストーリー性と洗練されたことばの魅力も兼ね備えています。想像力を育む考え抜かれた挿絵に、興味を発展させる「なるほどずかん」、読み聞かせアドバイス・お話解説つき！

『持たざる者の逆襲』

まだ何者でもない君へ』

溝口 勇児 著
(幻冬舎)



「親ガチャ」と、人生が思う通りにならないことを親や人のせいにしたり、不良性を発揮したりしがちなのが思春期というものだ。親が言っても聞かない悪ぶった青年に、本書はズドンと刺さるであろう。親世代からの生半可でない苦勞を背負いながら、努力し起業にこぎ着け、スケールの大きな人生を実現している著者のアニキ感が良い。令和版『成り上がり』（矢沢永吉）かもしれない。多くの青年の独立心を刺激する1冊。

高濱の本棚

理職にならずに一担任として一生を全うしたいと願う先生の気持ちかもしれません。花まるでは教室長よりもテール講師、サマースクールでは宿長よりも班リーダーの喜び。ちょうど片品の「秘密基地作りの国」に行つたとき、病欠等でリーダーが不足したせいでしよう、花まる全体を引っ張ってきていまは新規プロジェクトのトップである相澤樹（パッション）が、班リーダーをしているのを見つけた。食事場面で椅子に座り低学年の男の子に後ろから抱きつかれながら皆に目を配っているところに私が到着したのですが、私と目が合うなり実にまあ活き活きした瞳で「幸せですー！」と言ったのです。この気持ちを支えず教育の仕事が続けられれば良い人生になるよ々と共感しました。

私にとっては、修学旅行のコースが一番子どもとの距離に近い4日間になります。短けれどマンツーマンで雑談や悩み相談を受けるワンオンワン時間も作っているし、何となく夜の「高濱タイム」での班ごとの話し合いで班リーダーも私も対等に意見をぶつけ合う、これが充実感があるのです。地道に宮々と継続していきたいと考えています。

さて、サマースクールは元々多くの方との信頼の絆の上で構築されているのですが、今年の修学旅行では、ヒシヒシとそのありがたみを再確認しました。

まずはHさん。私の小中学校の二年先輩。いろいろなご迷惑をおかけしたこともあったのですが、私の活動を長い間応援してくだ

さっている「川遊びや虫捕りの先生」です。今年も私たちが来る前に何度も川の状態やクワガタ・カブトの捕れる木の状態を下調べしてくれ、「今回は胸川のこの場所で行うぞ！」と教えてくれるのです。しかも今年は地元の高校生5名をミニリーダーとして招いて、一緒に遊んだりお世話したりする関係を作ってくれ、子どもたちが大喜びでした。夜の高濱タイムの話し合いにも参加してくれました。

次に元花まる社員でいまは名古屋市役所勤務の和泉くん。10年以上前に情熱大陸を観て九州から上京してきた繊細で熱い行動派ですが、花まるとして人吉の教育支援に入ったら、そこで嫁さんも見つけ定住したのでした。彼も毎年修学旅行では裏方として、草むしりや各種準備など、無償で応援し続けてくれます。

そして400年近く続く、お殿様のための茶道である「肥後古流」の宗家の小堀氏。彼は熊本高校の同級生で、ミニエピソードとしては、1500m走で高一のときは6分台だったのに高三のときに5分を切れたのは、バスケット部の小堀くんにはベタッと着いていったからというミニ恩人でもあります。この日のために紋付の袴を新調したという彼と、ずっと中心の幹事役としてお世話してくださる娘さんとお弟子さんたちの指導の下、講義から始まり、茶室の隅の隅から入ってお茶をいただく経験、そして今年には広間でお茶を立てる体験を提供していただいたのですが、去年にも増して多くの子どもたちが「作法の美しさ」に感

動した。「東京に帰ったら親に頼んでお茶を始めたい」等々、熱い感想をくれました。そのとき、私も雰囲気を感じ上げようと和服に着替えたところ、みんなから写真を撮られました。そのなかで少年Hくんが撮った床の間の掛け軸やお花をバックにした一枚が「傑作だ」と話題になったのですが、何分かあとにはHくんがそれを自分のスマホの待ち受け画面にしていました。スマホを差し出して見せる満面の笑みの彼を撮影した写真は、私自身の今年一番の一枚にもなりました。



これはほんの一端で、さまざまな会場で子どもたちと出会い、今年も「ああ、これが天国だ」と何度痛感したかわかりません。教える子が大勢高校生リーダーや大学生リーダーになっていることにも深い感動があります。そもそもも預けてくださる親御さんはじめ、多くの方々に支えられてこそ存在できていることに感謝しつつ、来年も子どもたちと良い思い出が作れるよう、継続は力と信じてコツコツと体作りに励みたいと思います。

花まる学習会 高濱正伸

花まるだより 2024年9月号

(令和6年9月15日発行)

編集・発行 株式会社こうゆう
花まる学習会
高濱正伸
企画・編集 久慈 葉津紀・生井 ちま
編集 金井 彩・清田 奈南
坂田 翔・高橋 奈穂・平山 真康
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子
印刷 アークランド株式会社



1, 2, 3, 4, 5, 6,
ぐわしぐわし!!



いざ、クワガタ体操!



今年もたくさんの方々が高校生リーダーとして戻ってきてくれました



川遊びも全力!



夜のハイタッチ会

高濱が、花まるの教室長をちょっとおちゃめに紹介するこのコーナー! 「タカタコ」は、高濱による他己紹介で教室長を深掘りします。2024年度のテーマは、「私の母」。各教室長が実際に自分のお母さんや家族に改めてインタビューした内容を、高濱がまとめました。





2024 サマースクール

全コースが終了しました。ありがとうございました！

花まるスタッフが現地で撮影した
サマースクール写真をお届けします。







らくちゃん（東京都）



今年の父の日に娘がプレゼントしてくれたものです。

「いつもありがとう。毎日、何かしらつくっていますね。年中の頃、花まるで立てた『デザイナー屋さんになりたい!』という志は変わっていませんね。全力でサポートさせていただきます。これからもよろしくお願いします。父より」

Rinせんせいより

季節にちなんだモチーフを、飾れるように工夫したんですね。カサをひらいた様子を、円形の紙を切り重ねていくことで表現しているのかな？ 色とりどりで優しい雰囲気ですね。

そしてモールを使った持ち手のアイデアもいいですね。自由自在に形を変えられる素材の特徴をとらえています。

この作品を見て、「つくってみたい」と思ったそこのあなた、Rinせんせいも真似してつくってみましたよ(笑)。でもまったく同じものは絶対にできません。あなたにしかつくれない唯一無二のものになるから、みんなも真似してつくってみたいだろうかな？ 真似してつくっているうちに新しいアイデアが降ってくるかもしれません。手を動かしているうちに、どんどんクリエイティブになっていくところも、創作のおもしろいところです。

こんな作品を父の日にもらったら、最高に嬉しいです。お父さんから娘へのメッセージに、ちょっぴり感動してしまいました。



「あなたは どうしたい？」
自分の ところに 向き合った
子どもたちの 作品展です。



花まるの授業中に先生がマジカルスティックで椅子をつくってくれたのですが、時間がなくうまくいかなかったとのことで、自分でつくってみんなに見せたいとがんばりました。

お父さんと一緒につくりましたが、いざ挑戦してみるとマジカルスティックは面取りされていて立たせるのが難しい！

何回も失敗し、正直そばで見ていて無理だろうなぁと思いました。お父さんにコツを教えてくださいながら、椅子とたてものの2つを完成させました。

工作が好きなのですが、想像力と忍耐力が改めてすごいなと思いました。

(母)

Rinせんせいより

「みんなに見せたい」という動機が、思いもよらない集中を生んだんですね。

大切な誰かにむけて作品をつくるとき、子どもたちから生まれるクリエイティビティに、相手を思う力ってすごいと感じることはよくあります。大人が「無理だろうなぁ」と思ったことも、試行錯誤を繰り返して乗り越えていく姿に、驚きます。

あきらめないでやり抜く力は、好きなもの、遊びだと感じるものなだけで育まれるものだな、と改めて感じました。

面取りされているため見た目以上に表面積が小さくなり、立たせるのが難しいことも、つくってみたいと気がつかないですね。お父さんも一緒に取り組んでくれたんですね。

それにしてもこの作品群、くしゃみや風で吹き飛んでしまわないか、ドキドキしてしまいました。写真におさめておくのはいいですね。この作品も、見ていると挑戦したくなりますね～。挑む人、大募集😊ですね。



ゆりこちゃん（東京都）

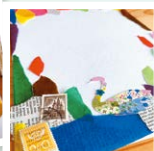


今月のARTレシビ

みんなの
うちART作品を
待っています！

- ・レシビ部門
- ・じゆう部門

Rinせんせいに
おくらせよう！



『切って、貼って、コラージュアート』

Rinせんせいも大好きな技法「コラージュ」。

今回の動画では、過去に描いた絵を切り出したり、丸くて白いシールに色を塗ったりして素材として使っていますが、そもそも使う素材にも貼りがたにも、決まりも正解もなく、ただ頭を空っぽにして楽しめる自由な表現ができるもの。

新聞や雑誌から文字や写真を切り抜いて貼っていくのも楽しいですし、立体的なものでも大丈夫。

思ってもみない作品ができれば、ぜひ教えてください。

<https://youtu.be/KhVptX1BYZU>

Rinせんせい
がつくってみたいよ！



つくり方を
動画で
見てみよう

じゅんぶするもの
ハサミ・のり・自由に切って貼りたい素材・
画用紙や紙袋など貼り付ける台紙

こころと頭を
同時に伸ばす
幼児期の子育て

Rinコラム

60

自由な環境とは 対等であること

創作中、子どもたちはどんな気持ちでいるのでしょうか。

できたものを「見てほしい」という前向きな思いだけではなく、「思いついたアイデアを試してもいいのかな?」「これでもいいの?」「失敗しちゃった」というような不安が出てくることもあります。

大切なことは、すべての提案や発見、新しいアイデアを含む子どもたちの思いをそのまますべて受け止めるということ。「これだとうまくいかないかも……」「この道具はそんなふうに使うものではないよ」と大人が思ったとしても「ダメ」とは言いません。

「いいね」「やってみてらん」「おもしろいアイデア」「間違いないよ、大丈夫」こんなふうに肯定、ポジティブ、前向きな認める声だけで返答します。

「これをやったらダメと言われるのではないか」という緊張感が解けてホッとした顔をする子もいれば、「本当に? やっていいの?」と何度も確認する子もいます。しかし、「ここは何でも受け止めてもらえるんだ」と安心した子どもたちは、どんどん「自由に」創作していくことができるようになります。

不思議なことに、人は自分の在り方そのものを肯定してもらえない環境では、その場にそぐわない行動はしなくなります。自己の内面へと意識が向かうからでしょう。

作品制作、創作表現は、正解のない世界。既存の価値観や他人の評価に拠る必要はありません。子どもたちが「自由に」創作できる環境を整えることができれば、感性、自主性や意欲、他人を尊重する力、想像力は自然と引き出されていきます。その環境をつくるための重要なポイントのひとつが「大人と子どもが対等であること」です。

それはつまり、表現者として対等であるということです。

普段私たちは年長〜中学生までの30人くらいの子どもたちとスタッフ数名と一緒に創作活動をしています。通常、異学年の子どもたちがこれだけ集まると「6年生だから」「中学生だから」「下の子の面倒を見なければ」というような意識が生れます。そのことは、教育的にも意味がある集団のダイナミクスと言えるのですが、創作の時間にはそれが生まれません。

「1年生だからうまくできない」も「中学生だから上手」もない。全員が、自分と同じように自身の作品に向き合って作り上げたものがそこに並ぶと、自然と作品と作者への敬意が生まれてくるのです。

「そんなアイデアがあったのか!」「私は気づかなかった」「すごいなあ」……鑑賞会では、心からの称賛の言葉がもれ、作品をよく見ようと、身を乗り出して観察し、子どもたちは対等

に、お互いの作品を認め合います。

「こんなふうにも見える」「本当だ」「ひっくり返してみても」作品の見方は、鑑賞者の解釈によって無限に広がったり変化したりしていきます。ものの見方を広げていくこと、多様な視点で見つめることに、(対話型)鑑賞は役立つことが、その様子からわかります。

大人のスタッフも、子どもからアドバイスを受けたり、自らの制作のヒントを得たり。いい意味で「全員がフラット」であるのは、その場にいる大人が、心から子どもたちの作品とともに存在する「共感者」であり続けたからです。

生み出された作品は、子どもたちの内面が見える形となったもの。それは一人ひとりのいまが凝縮された、その人そのものです。心が一つひとつ唯一で世界一なのと同じで、それぞれの作品も唯一で世界一のもの。そして、その人の心(作品)を見て、自分の心が何を感じたかを表現しあっていくことが、「コミュニケーション(鑑賞)」。全員が全員の心を認め合う。そのままの自分であることを、肯定し続けられる時間。そのことが子どもたちにとって、どれほど重要な意味を持つのか。

本当に「自由な」表現を許されたときにこそ、子どもたちは真の自分を解放して、力を発揮し、自信を得るのです。

Rin(井岡由実)

Atelier for KIDs

最新のイベント情報は、
10月号のページをご覧ください。

<https://www.hanamarugroup.jp/art-edu/news.php>

NEW! おうちアトリエコース

素材セットとおたよりがご自宅に届き、お好きなタイミングで制作をします。

Zoom(授業日の午後)またはLINE公式アカウントのやりとりにて、鑑賞会も行います。

詳しくはHPをご覧ください。

参加費:1名2,500円(送料・税込)

申込締切:10/9(水)19:00

『こころと頭を同時に伸ばす A1 時代の子育て』
(実務教育出版) より





花まる教室長がお届けする
子育て奮闘記

花まるリビング

38

勝谷 里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、小4・小2・2歳の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんすう初級』（学研プラス）ほか



「好き」を観察し、「好き」から攻略する

花まる学習会とスクールFCのスタッフが有志で集まった読書会で「子どもに歴史を好きになつてほしいがまったく興味がない。何から読ませるのがよい？」という話題になりました。おもしろかったのは参加者の「おすすめ」が多様だったことです。

——歴史漫画は王道！

——ファンタジー小説が好き。古代日本を舞台にした物語を読んで日本史好きになった。

——人に興味がある。気になる人を深掘りするなかで、時代背景が気になってきた。

——理科が好き。科学史を軸に学ぶと、歴史にも興味広がっていった……など。

花まる学習会では、低学年までは特に「学ぶことは楽しい」と感じてもらうことを重視しています。それは「好き」に勝る原動力はないからです。根本に「学ぶって楽しいな、好きだな」という感情があれば、その先、さまざまな力へとつながっていくはずです。

今回の問いへのさまざまな答えは、まとめると「自分の好きを探し、そこを切り口に興味を広げていく」です。やはり「好き」は偉大。

わが家の話。青いハコ（思春期。親の言うことを聞かなくなり外の師匠のアドバイスが有効な時期）に入った、10歳の長女。なかなかお手伝いをしない。日々、自分の好きなことだけをしたいタイプ。

ある日私が一番忙しい夜の時間に「やることない」と言ってきました。毎度お決まりの「宿題をやったら？」「やだ」「お風呂に入ったら？」「やだ」の問答を繰り返して、いい加減、私もうんざりしていたのですが、ふと「何かに興味を持ってもらうには、「好き」から入るべし」という事例を思い出したので、

「洗面用具の引き出しや、私の化粧品品のポーチの

中身、全部出していいから、整理して、古いやつ捨ててくれない？」

と頼んでみました。すると「えー」と言いつつも「仕方ないなあ」と整理整頓に取り組んでくれたのです。最近、メイク道具に興味を持っていた長女は「これ何に使うの？」など話しながら楽しんでいました。

（「好き」を混ぜるとお手伝いをしてくれる！）と味をしめ「お菓子の置き場所もぐちゃぐちゃなんだよね」と言ったら、なんと、そこも片付けてくれました。（早く宿題をやるうよ……）と言いたい気持ちはあったものの、ずつと気になっていた部分の片付けが終わり、私も少しいい気分でした。

2歳半の次女。偏食です。夕食がチンジャオロースだったのですが、案の定いやがる。ただよく観察すると、豚肉もタケノコもピーマンも「全部一緒」を特にいやがっている様子。（ん？この様子、何かと似ている）と考えてみたら、次女が積み木遊びをしている様子が浮かんできました。

次女は「色」がとても好き。兄が五色のヒーローものを見ていたら、横で「どんないろーがすきー？赤」と歌い出したり、ぬいぐるみに何かを配るときにそのぬいぐるみと同じ色のものを配ったり、こだわりがあります。ブロックで遊ぶときも色が混ざるのをいやがり、必ず一色を集めて何かを作りたいがるのです。

「色が好き」な特性を、食事にも活かさないかな？と思い実践。チンジャオロースを「ピーマン、豚肉、タケノコにそれぞれ分ける」「きみどりのピーマンだよ」「濃い茶色の豚肉」「タケノコはうすい茶色」など、食材の色に注目させる声かけをしながら食べさせたら、めずらしくはくばく食べてくれたのです！自分から「ピーマンはきみどり」と言うなど興味津々でした。毎回使える技かはわかりませんが「好き」から広げていくことの有効性を強

く感じた事例でした。

10歳にも、2歳にも「好き」を切り口にした声かけはとても効果的でした。子育てで普段の声かけにちよつと煮詰まっているとき、子どもの「好き」を観察することから始めてみる方法、おすすめですよ！

花まる学習会 勝谷里美



『こそだてえほん はじめての「よのなルールブック」』
高濱 正伸 監修
林 ユミ 絵
（日本図書センター）

ベストセラーシリーズに、待望の【お母さん・お父さん編】が登場！「こそだて」と向き合うためにおぼえておきたい42の習慣を紹介。「親はどんなことを心がけたいの？」そんなお母さん・お父さんを応援する絵本です。そのなかに「子どもの「好き」を応援する」という一節も！



『おすしのずかん』
大森 裕子 作
藤原 昌高（ぼうずコンニャク） 監修
（白泉社）

食べ物としてお寿司が好きなお寿司屋さんへのお出かけが好きな子、そもそも図鑑が好きな子。そういった「好き」をきっかけに、この本に触れると、お魚にまで興味が広がっていくかも？何か一つの好きをきっかけに、好きの連鎖が起きると楽しいですよね！



『くまさんくまさんにみてるの？』
エリック・カール 絵
ビル・マーチン 文
偕成社編集部 訳
（偕成社）

実は長女と長男はあまり読まなかったこの本ですが、色が好きな次女は、色鮮やかな動物が出てくるこの本を、何度も「読んで」とせがんできます。一度読んだことがある本も、好きを切り口に読み返してみると、また違う発見があるかもしれませんね。

私の母は、4人きょうだいの末っ子で、山形で育ちました。小学校時代に2番目の姉を交通事故で亡くしたときはショックでした。たばこの葉を生産する農家で、親戚一同で助け合って作業していたのですが、小5の私が思春期の入り口で「行きたくない」と言ったら、「働かざる者食うべからず！」と言って激怒されました。その実家を継がなかったことは後悔しています。『菊地健斗・プロテイン』

Masahiko

白杵 允彦

Usuki



大人になっても、おじいちゃんになっても、忘れないよ

わが家の長男（小4）は、小1の頃、学校でよくいじわるをされていました。モジモジくんだったので、それがエスカレートしていったのです。親として心配ばかりが積もる日々でした。そのため、深夜に妻と話し合うこともしばしば。やがて夫婦の間で一つの想いが強くなっていきました。

「親が出るのではなく、息子にはもめごとをはねのけていけるような人に育ってほしい」

「どうしたら、そうなれるかな？」と妻。私はさすが「サマースクールに行かせよう」と一言。花まるの野外体験では、初めて会う子たちが班を組み、喧嘩をしたら子ども同士で折り合いをつけることを大切にしています。そのため、私はこれまでにた

くましく「もめごと」を「こやし」にしていく子たちを、幾度となく見てきました。わが子もきつと花まるっ子たちのように強くなれると信じているからこそ、家訓のように決めたのです。息子には、花まるのすべての野外体験に行ってもらおうと（可能な限り）。

小1で初めて参加した夏の3泊4日は、親子ともにドキドキでしたが、帰ってきた息子は、鼻の穴をパンパンに膨らませながら「また行きたい」と目を輝かせていました。小2で参加した雪国スクールでは「喧嘩して泣いた」と言っていました。ちゃんと仲直りしたようで、班で盛り上がった「手打ち野球」が家でも流行りました。もめごとをこやしにできたのだと安心しました。

やがて小3になる頃には、学校でもひょうきんな一面が出るようになりました。ある日、授業参観に行った際、女の子が私のところへ来て、「Kくん（息子）のお父さんですか？ Kくんモテるんですよ」とだけ言って去ってしまいました。夜、息子と一緒にお風呂に入りながら事情を聞きました。

「K、学校でモテているの？」
「結婚したいと言われた」
「それで、なんて答えたの？」
「大人になっても、おじいちゃんになつて

も、忘れないよ」

「……」

言葉が出ませんでした。恋愛の「れ」の字も知らない息子がこう答えたのは、本人曰く、結婚はできないけれど、その子を傷つけることはしたくなくて、考えて言ったことだったようです。

こうした気持ちは、どこで培われたのか。野外体験だとすぐにピンとききました。

目をつぶると、去年引率したサマースクールの情景が、昨日のようによみがえってきます。

川遊びで、Aくんは大きめの石を一生懸命集めては温泉をつくっていました。やがて「できた！」の声とともに呼ばれた私。「ここに座ってごらん」と案内され腰を下ろすと、雄大な最後の山々が視界に入ってきたのです。「毎年来ているはずの湯沢の川に、こんな絶景ポイントがあったなんて！」その感動と癒しに浸っていると、Aくんが嬉しそうに私の顔を眺めていました。

Bくんは、何度も川に顔をつけては、何かを探しているようでした。近づくと、「ヌシがいた！」と教えてくれました。「ヌシ!？」その名を聞いた子たちが続々と集まってきました。せーので潜り、水中で息をひそめ、目配せし合いながら、ゆっくりと岩を持ち上げては下ろしていきます。やが

て、搜索活動の息がぴたり合ってきた頃、見たこともないオレンジ色の魚が私たちの視界に飛び込んできたのです。「ヌ……」と誰かが言いかけた瞬間、それは電光石火のごとく去っていきました。顔を上げ、みんなで叫びました。「ヌシだー!!」

何を回想しても、その登場人物すべてが「みんなと一緒に幸せになりたい」という気持ちで、自然に遊んでいたように思います。してもらって嬉しかったことをやろうとするのが子どもで、思いやりの心は自ずと育まれると私は信じています。先の息子が告白された話でも、目の前の人を大事にすることは、教わらなくてもできると感じました。その価値観は、仲間との出会いや、ドラマチックに思っておもいに遊ぶことなかでこそ醸成されるものなので、私は、わが子の心を強くするのを野外体験に頼ったのかもしれない。

さて、「次も野外体験に行く？」と息子に聞くと「当たり前」と返ってきます。理由は「友達をつくるのが楽しいから」だそうです。大人も子どももみんな友達になれる。そう気づいてからかもしれない。息子が学校でいじわるされなくなったのは。

花まる学習会 白杵 允彦



～こんな習い事・部活動はいかが？～



『長浜高校水族館部！』

令文 ヒロ子 文
紀伊 カナ 絵
(講談社)

この本に描かれている愛媛県立長浜高校は、生徒たちが校内で本当に水族館を運営している実在の学校。一般公開日には生徒自ら案内や解説をし、執筆した研究論文は世界的にも高く評価されています。自分の「好き」を追究し、「未知」を探究する高校生たちの姿が非常にさわやか。著者は『若おかみは小学生！』シリーズや、『パンプキン！ 模擬原爆の夏』などでも有名。



『ゆけ、シンフロ部！』

堀口 泰生 著
青木 俊直 絵
(Gakken)

「変わろうと思った瞬間から、人は変わる！」。大分でさん(?)な「シンフロ」を題材にした直球の青春小説。登場人物の奮闘ぶりに笑って、でもラストには思わぬ感動が——。公開から2か月で100万回再生を突破し、2016年にはギャラクシー賞を受賞した大分県のプロモーションCMを書き下ろし。チャーミングなイラストは朝ドラ『あまちゃん』でも有名な青木俊直氏によるもの。



『青春サプリ。自分がここにいる理由』

青木 美帆、田中 夕子、ささき あり、
近江屋 一朗、日比野 恭三 文
くじょう 絵
(ポプラ社)

さまざまな立場で部活動に打ち込む全国の若者たちの姿を描き、朝読書でも人気の“部活の最高の教科書シリーズ”です。いわゆる強豪校のスター選手だけではなく、一風変わった部活に打ち込む学生、補欠選手やマネージャーなどの視点からも描かれているのが斬新。中高の学校選びの参考にもうってつけ。エピソードはすべて実話。登場人物はすべて実名。そして、すべてが「神回」です！



『っぽい』

ピーター・レイノルズ 作・絵
なかがわ ちひろ 訳
(主婦の友社)

お兄ちゃんの何気ないひとことで絵を描くことに自信をなくした一人の少年が、再び表現する喜びに気づくまでの小さな物語。「そうか、っぽいでもいいんだ——」ゆっくりと時間をとって読んだあと、ぜひまわりの風景を見てみてください。きっと、いままでとはちょっとちがって見えるはず。戦後広く読まれた日本初の哲学書『善の研究』(西田幾多郎)で述べられた「純粹経験」とも共通するメッセージがこめられた、薄くても奥深い一冊。



『アンジェリーナはバレリーナ』

キャサリン・ホラバード 文
ヘレン・クレイグ 絵
おかだ よしえ 訳
(講談社)

バレエが大好きなねずみのアンジェリーナは、いつでもどこでもくるくる踊ります。勉強もお手伝いもしないアンジェリーナに困ったお父さんとお母さんが考えた名案とは……？ まさに「夢中は努力に勝る」を体現したアンジェリーナの姿が魅力的。彼女を見守るお父さん、お母さんも印象的で、夢中になれるものをもつことの素晴らしさが感じられる、珠玉のロングセラー。



最新のイベント情報は、
10月号のページをご覧ください。



<https://www.schoolfc.jp/extension/j-hiranuma/2024/>



はたなか ひろあき
花岡 宏哉
(ヒーロー)

花まる くらぶ

ムイカの歓喜

昨年末、雪国スクール「花まるスキー王国（エキスパートクラス）」に班リーダーとして参加しました。

直前まで新潟県の湯沢地域は雪不足の影響でスキー場が開かず、初日は近くの広場で雪遊びをして大盛り上がり。自分たちよりも大きな雪だるまを作ったり、かまくらを完成させたり、雪合戦を楽しんだり……。何もない雪原で無限に遊びを生み出す子どもたちの姿が微笑ましく思えた、そんな初日でした。

2日目、なんとが隣町のスキー場がオープンしたということで、バスで40分ほどかけてムイカスノーリゾート（新潟県南魚沼市）に行きました。そこでのエピソードを綴ろうと思います。

私が担当した班の2年生Yくん。彼は、「パラレルターンを成功させたい!」という目標を達成するために、マイスキー板

を持参してこのコースに参加しました。ところが午前中の彼の様子を見てみると、その意欲とは裏腹にどこか消極的。気になった私は、二人でリフトに乗った際に聞いてみました。すると「とにかく安全に滑りたいんだ」という言葉が出てきました。

Yくんには、スキーをしている最中に怪我をした過去があり、それがトラウマになって思い切った滑りができないとのことでした。目標としていたパラレルターンには挑戦することなく、午前中のスキーは終了。

宿には帰らずに、そのままスキー場で昼食を食べていたときのことです。「八の字は安全だけれど、なんかなあ」とボソツと一言。モヤモヤを抱えている様子でした。

吹雪が強まり寒さが一段と厳しくなってきた午後のスキー。一寸先も見えない状況です。日も傾きはじめ、バスに乗って宿に帰るまであと1時間。いよいよ終わりの時間が近づいてきたとき、Yくんがチームの仲間に向かって「全員でパラレルを成功させよう!」と言ったのです。きつと、このままでは終われないという気持ちと、この班の仲間たちとなら成功できるという気持ちがYくんの言葉を生んだのでしょうか。

Yくんの言葉をきっかけに、チームの

仲間の教え合いが活性化しました。Yくんは、5年生Kくんの「ターンするとき少し板をあげてごらん」というアドバイスを参考に、最後の1時間をパラレルターンの練習に費やしました。

そして迎えた終盤、なんと全員がパラレルターンを成功させたのです。吹雪のなか、輪になって喜ぶ子どもたち。スキー場の名前を取って「ムイカの歓喜だ!」と叫んでいました。

間もなく帰りの時間。「あと一本いけるけれどどうする?」と聞くと、Yくんは「もういいかな」と満足そうな表情で答えました。一足早く集合場所に向かうとしたとき、彼がもう一度口を開きました。「リーダー、最後にやっぱり滑りたい!」と。

顔が凍るほどの吹雪のなか、滑り終えたあと、Yくんたちを祝福するかのようには吹雪はピタッとおさまり、綺麗な夕焼けを見ることができました。

達成感に満ちあふれた彼の表情。目を見合わせて私とグッドポーズ（👍）の瞬間、言葉はいりませんでした。

宿に戻り、Yくんはパラレルターン成功の秘訣を聞いてみると、『板を動かさないぞ!』と思い続けたら勝手に体が動いたんだ!!と興奮気味に教えてくれました。

翌日は雪国スクール最終日。宿からす

ぐ近くのスキー場もオープンしたのとことで、午前中にスキーをしました。リフトに乗っているときにYくんが「リーダー、パラレルターンをするときはね、実は上半身が大事なんだよ」と教えてくれました。

昨日とは打って変わって理論的な秘訣に驚きましたが、言われてみれば私の小さい頃もそうだったなと思い返しました。

逆上がりでも、二重とびでも、説明を聞くよりも、何度も失敗して、それでも立ち上がった練習を続け、いつの間にかコツを掴んでいく。

習うより慣れろ、理論より実践と言い換えてもいいでしょう。まさに小さな成功体験が自信になる瞬間です。

Yくんが一步踏み出せたのは、間違いない仲間が存在があったからです。仲間がそばにいるからこそ、最後の一步が踏み出せる。花まる野外体験の醍醐味が詰まった3日間でした。

花まる学習会 花岡宏哉

花まるの
教室長を
紹介します!

Hanamaru Family 花まるファミリー

オンライン アルコ アルゴクラブ みんなビレッジ 無人島 FC スクールFC Flos フロス アノネ音楽教室

みなさんの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに!



Rinせんせい

いおか ゆみ
井岡 由実

花まる学習会 ARTのとびら 奈良県



しばしばっしー

いしばし しゅうへい
石橋 修平

東京東 東京都



サンシャイン

かざま しょうへい
風間 翔平

東京西 FC 埼玉県



カトパン

かとう たかあき
加藤 崇彰

関西 茨城県



アンティーガ

くさか べりよう
日下部 龍

東京東 埼玉県



コマさん

こまつばら まなぶ
小松原 学

千葉 千葉県



サイバ

たかはし だいすけ
高橋 大輔

埼玉 千葉県



こりす

たなか りさこ
田中 理紗子

中京 愛知県



おね

はら みおり
原 実緒

中京 岐阜県



ハッスル

ひぐち まさと
樋口 雅人

埼玉 岡山県



おゆる

まつうら かな
松浦 加奈

神奈川北 東京都



ファイヤー

みのうら けんじ
箕浦 健治

東京西 大阪府



まんまん

たかはま まさのぶ
高濱 正伸

〇〇〇 熊本県

リーダーネーム

名前

所属

出身地

サマースクールや雪国スクールで会おうね!

9月の誕生花は **ダリア**

私の母にインタビューすると、大切にしているものは家族で、信念は「自分の人生は自分で決めて自分で閉じる」とのことです。話を聞いておもしろかったのは、私の個性だと思っていた「できないこと」はできないといいけれど、『もうこれは無理』というところまではとらずあきらめず頑張ろうとする性質は、実は母親譲りだったんだと確認できたことです。| 岡本祐樹・カモン